

令和8年度 第1回石狩市教育委員会叢書発刊編集委員会 議事録

要点筆記

■日時：令和8年9月9日（水）13時30分～14時30分

■場所：石狩市民図書館 視聴覚ホール

■出席者：下記表のとおり

委員		事務局	
役職	氏 名	所 属	氏 名
委員長	百井 宏己	社会教育部市民図書館館長	森本 栄樹
委員（相談役）	田岡 克介	社会教育部市民図書館副館長	工藤 一也
委員	石橋 孝夫	社会教育部市民図書館主任	吉岡 律子
委員	村山 耀一	社会教育部市民図書館主事	有好 一晟
委員	三島 照子		
委員	志賀 健司		
委員	寺尾 陽助		

■欠席者：工藤 義衛

■傍聴者：なし

次第1 開会

次第2 委員の委嘱について

- ・前委員長である田岡委員には相談役という立場でご協力いただくこととなり、新たに百井委員と寺尾委員の2名に委員をお引き受けいただいた。皆様の任期は、令和8年8月1日から令和10年7月31日までの2年間である。

次第3 図書館長挨拶

- ・石狩市ウェブサイトに掲載する議事録は要点筆記により進める。

次第4 委員長の選任について

- ・田岡前委員長の意見もあり、百井委員が新たな委員長に決定した。

次第5 委員長挨拶

次第6 議題（1）今後の石狩叢書発刊について

- ・今後の発刊計画について、令和13年までを目処に、2年に1度のペースで計3巻を発刊する方針が確認された。また、この方針について、教育長を含め教育委員会とも共有できていることを確認した。令和13年以降継続するかについては、その時点での状況を踏まえて改めて検討する。

次第6 議題（2）石狩叢書第5巻のテーマについて

- ・令和8年度に原稿執筆・収集を行い、令和9年度に校正・発刊というスケジュールを想定する。
- ・第5巻のテーマの候補として最初に挙げられたのは、「石狩川」、「黄金山」、「人物誌」、「石狩湾新港」、「厚田」、「浜益」である。その後、「札幌と石狩のどちらが古いか」、「農業」、「酪農」、「交通の変遷」、「自然」、「歴史」、「ニシン漁」も挙げられた。
- ・石狩叢書のコンセプトは村史や町史よりは手軽で、広く多くの方に手に取ってもらうものであり、対象のイメージとしては、小学校高学年から一般の方まで幅広く読めるものであるという認識を確認した。
- ・80～90歳くらいの人から聞かなければならないようなテーマを取り扱うのであれば、発刊するテーマの順番が大事になる。
- ・後日、田岡氏からも助言をいただきつつ、事務局や寺尾委員、志賀委員等で議論していただく。話す内容は、テーマ、執筆者は何名必要か、原稿を1人当たり何ページ分記載する必要があるか、外部にどれだけお願いするか、書き手と資料の現状など、本を作るにあたって今回だけでは決めきれないことである。テーマは2、3個まで絞っていただく。結果を共有した後、10月中旬頃を目処に再度委員会を開催する方針とする。

次第6 議題（3）石狩叢書第5巻の発刊スケジュールについて

- ・制作スケジュールは、令和8年度に原稿収集や執筆を行い、令和9年度に校正・発刊を目指す流れが示された。インタビュー等が季節的に制約される可能性を考慮し、10月までにはテーマや方向性を、できれば執筆者もある程度決めて依頼をするところまで進める方針とする。

次第6 議題（4）その他

- ・執筆料に関しては、20エピソード分の予算があるので、2、3のエピソードをお願いする人が出てもおかしくないこと、外部に20エピソード分頼むことができること、一方で編集者を雇う予算はないため、編集は事務局等で行うことを確認した。
- ・編集体制について、昨年度は一人の職員に集中していたので、そうならないよう、章立てや写真の許諾、契約事務等の業務分担のほか、司書や学芸員に史実関係の確認等を協力してもらうなど、バックアップ体制の構築が課題として示された。

令和8年10月6日 議事録確定

石狩市教育委員会叢書発刊編集委員会 委員長

百井宏己